

越後駒ヶ岳山行報告書

(山域) 越後三山(越後駒ヶ岳)

(コース) 石抱橋～道行山～小倉山～駒の小屋～越後駒ヶ岳(ピストン)

(日時) 4月15日(金曜日)～4月17日(日曜日)

(天候) 4月16日:晴、17日:曇時々晴(豪風)

(参加者) CL:内堀、SL:狩野、食糧:小宮山、記録:田辺、佐藤・吉瀬

(山行タイム) 下記個別山行報告参照

(日時) 4月16日(土)

(コース) 石抱橋～道行山～小倉山～駒の小屋～越後駒ヶ岳～駒の小屋(宿泊)

(天候) 晴れ

(山行タイム) 石抱橋 07:45～道行山 10:50～小倉山 12:05～駒の小屋 14:50～越後駒ヶ岳 16:00～駒の小屋 16:40(宿泊)

今回はメンバー6名、狩野さん、小宮山さんの車2台に分乗して目的地へ向かう。前夜泊のため15日金曜日から出発し途中『関越自動車道上里SA』に23:30頃到着、休憩と合流待ちを行う。道は混雑する様子もなく非常にスムーズだった。その後『関越自動車道小出IC』を01:00に降りて、明日の各自の朝食昼食の買い込みを付近のコンビニで行い、本日の宿泊地『道の駅ゆのたに』に到着。荷物を広げて楽しい団らんの時間をしばらく過ごして就寝は02:45頃となった。

翌日は05:30頃起床、各自朝食を取ったのち撤収し、06:45頃出発、登山開始の起点となる石抱橋に到着したのは07:10頃だった。既に車が何台か駐車しており他のパーティも登山の支度を行っていた。準備している間に橋下の川を見ると禁漁区であるためかイワナだかマスだかが悠々と群れており、中には2尺を超える大物もいるのが確認できた。

準備を整えて登山開始。朝から天気が良いため日焼け止めもたっぷり塗った。まず橋を渡り登りの舗装路に行く。しばらく行くとわかりづらいが舗装路から離れて川に沿って行く道がある。ここからは平坦だが雪が付いた道を進む。1時間ほど歩きそろそろ登りの尾根が右側にあるはずと探すが、登り口がわかりづらい。見当をつけた尾根を上がりつつルートを探す。雪が少なく、藪が多く進むのに難儀する。明確な取りつきはわからなかったがとりあえず進むべきルートが分かり、以降は登りにかかる。しばらく進み途中アイゼン装着。道はところどころ雪が解けて土がむき出しになっていて少々歩きづらいが、道行山付近までいくと雪が付いた道を歩けるためだいぶ歩きやすくなる。道行山からは中ノ岳や荒沢岳方面がしっかり見える。汗をかいて日焼け止めが落ちたのか、天気が良いため顔や首筋がチリチリする。この状態でしばらくならかな登りを3時間ほど歩くと、だんだんと傾斜がきつくなってくる。気温が高く尾根道は日影がないため普段より水の消費が激しく、途中休憩中に雪を溶かして水を作る必要もあった。前駒の下から駒の小屋まで傾斜が強くと一歩一歩ゆっくりとしたペースで登り、いい加減暑さと登りのきつさでゆっくりでしか登れない状態に辟易してきたところで、なんとか駒の小屋までたどり着いた。

小屋は1階部分が開いておらず、はしごを使い2階より侵入する。既に先客としてソロ2組、カップル1組がいた。1階はトイレや管理人部屋、客室があるが窓が閉められて暗いため、私たちは2階部分の半分を占有させてもらった。ちなみにここのトイレは変わったバイオトイレで、トイレの中には『おがくず』が入っている。使用後はこれを攪拌する必要があるのだが、近くに置いてある自転車を漕いで攪拌するのだ。最近の山小屋は各種バイオトイレが増えてきたが、自転車式は初めて体験した。小屋では荷物を広げ一服するが、問題は水である。ヤマレコに上がっていた情報では、水が出ているというこ

とだったが、先ほど確認した時点では水場に水はない。水がないとなると雪を溶かして水を作る作業が必要になってしまうのは面倒だと水場を探す。結論としては小屋出て1 mくらいの所に板が貼ってあり、そこが水場なのだが分厚い氷に覆われていて水の気配はない。ピッケルで何度も氷を叩くと割れた氷の中からホースと水が流れ出てきて一安心。のどが渴いていたのでさっそく飲んでみたが・・・非常にまずい。ホースのプラスチック臭だろうか、それに苔と土が混ざったような味がする。煮沸すれば飲めるだろうか。

ともあれ水問題は解決したので、疲れて少し億劫になってしまっていたが、ここまで来て登らないわけにはいかないので、空身で越後駒ヶ岳頂上まで登る。登りは30分弱で頂上まで到着。見晴らしは最高。360度見わたせる最高の眺望。思い思い写真撮影など行いのんびりしつつ駒の小屋まで戻る。

戻ったら早速皆飲み始める。何はともあれ飲みたいようだ。飲みつつ片手間？で食事の支度も始める。本日の献立はおいしい新鮮サラダと鍋料理。野菜&肉たっぷりです6人だが2鍋分もある。水は沸かすと臭みがだいぶ消えた。コメも炊いたが、炊き立てのおいしいコメは下戸である私以外は皆あまり進まないようで、明日の朝食にはおじやにして食べることにする。みんなもっと延々飲み続けるのかと思ったが、他のパーティに気を使ったのか今朝の睡眠が3時間を切っていて疲労困憊だったのか、20時にはお開きとなり就寝となる。

■前夜泊のテント内



■登山前の準備



■川の右側の平坦な道を行く



■道行山手前から越後駒ヶ岳を望む



■道は長い



■駒の小屋から越後駒ヶ岳山頂への登り



■山頂にて記念撮影



■サラダ作成中



(日時) 4月17日(日)

(コース) 駒の小屋～小倉山～道行山～石抱橋

(天候) 曇りのち晴れ(正午過ぎまで豪風)

(山行タイム) 駒の小屋 14:08～小倉山 15:10～道行山 15:50～石抱橋 18:25

昨日夜半から風の音がうるさい。ガラスが割れるんじゃないかと思う強風で小屋が揺れるのが体感できる。昨日泊まったソロの人は夜明け前に出発したみたいだが大丈夫だろうか。とりあえず起床し、朝食を作る。昨日の残った鍋にこれまた昨日炊いたご飯をぶっこんでおじやにする。食後は下山準備をしていると、先に出たカップルパーティが戻ってきて風が強くて歩けないという。空身で偵察のため外に出ると、なるほどものすごい風だ。室堂にいた時は台風の日でもよく外に出て強風を感じたくて稜線沿いを歩いたものだが、なんと歩くどころか私の体が浮いてしまう!? 必死にはしごにつかまったが、あやうく飛ばされるところだった。大きいザックを背負い稜線を下るなんてとても無理だ。

とりあえずタイムリミットを14時頃として小屋でしばらく停滞する。空は雲が多いが青空も見えるし、周りの山々が見渡せる状態で風が吹いている以外は天気は悪くない。気温も高く、風がとても温く感じた。小屋に戻ると数時間さらに惰眠をむさぼり、2度ほど風が弱くなるタイミングがあり、都度準備をして外へ出たが準備が終わったころには風の強さが戻ってしまっていた。上空の高い場所にある雲はほとんど動かず、低い雲だけ異様に早く動いている。時間が経つにつれ風が弱

くなつてはきているが、まだ安全に下れるとは言えない。下るのをあきらめ停滞を考え始めた。念の為事前にちば山へは連絡をしておきたい。小屋の周りや中で携帯電話の電波を拾えるところを探し（局所的だったが）、ここで一報を入れることができた。

状況報告の連絡ができると、気分は停滞へ傾いていた。食糧はまだ各自持っているし、朝食に食べずに持ち越しているうどんや酒もあり、食糧には全く困らない。各自翌日の仕事は調整する必要があるだろうが、それさえクリアできるなら強風下で行動するより小屋で停滞するのはやぶさかではない。だがタイムリミット近くになってかなり明確に風が止んでしまった。個人的には今から出発するのは若干億劫だなあと思いつつ準備して外に出ると、そよ風程度で全く問題ない。暗くなる前には到着できるだろうし、出発となった。

核心部は小屋から前駒の下200m位まで。このあたりは登りでも苦しんだ急傾斜である。気温が高いためか昨日までのトレースが溶けてほぼ消えており、雪が腐り気味でアイゼンがあまり効かないが、かかとでステップが切れるのであまり苦勞せず下ることができた。後は肅々と前日来た道を戻る。途中の露地でトクワカソウが咲いていた。最後藪だったところの尾根道がやはり難所だったが、ヘッドランプを使う必要もなく無事車まで戻った。

帰りは『ゆ〜パーク薬師』にて温泉につかる。夜間回数券なるものを駆使し一人500円以下で入浴する。清潔な風呂は広めで露天やサウナもある。少々熱いが疲れた体には心地いい。日焼け止めを塗ったがやはり顔は焼けてしまっていた。入浴後は施設内の食堂で蕎麦や定食を各々楽しみ小出ICを20:30に出て休憩で立ち寄った高坂SAには22:15に、穴川ICを降りたのは23:45頃だった。

■ 停滞中

■ 今後についての話し合い



■ 撤退開始

■ 青空や虹が見えた



(越後駒ヶ岳ヒヤリハット_160417)

報告者 : 内堀 孝信 (越後駒ヶ岳山行CL)

事象 : 越後駒ヶ岳 前駒上部、駒の小屋で低気圧の影響で風が強く、下山出来ず停滞した。
7:00~13:30頃

発生日時 : '16年4月17日 停滞時間7時間程度

対応 : ①12時を超えても風が止まなく当初下山時間リミット14時まで止まないと思い、狩野さんの携帯から菊地先生~柘植リーダ部長へ連絡
メンバーの健康状態、食料等も豊富で対応可能である事を連絡した。
また、翌日の天候回復が見込まれていた。
②タイムリミット直前の13:30頃から急激に風が収まり、出発の準備を行い、14:00頃、下山開始した。核心部である前駒直下とその先のヤセ尾根を無事越え、道行山に15:40頃到着して、柘植リーダ部長に下山開始した旨、連絡する。
③登山口である、石抱橋周辺には18:20頃到着した。
柘植リーダ部長へ下山完了報告済。
19:10頃、山行管理者である上茂さんに下山報告を行った。
私(内堀)の携帯は繋がらずシルバーライン終了後、繋がった状態であった。

原因 : 元々、日曜日の天候は悪くなると天気予報や山の予報でも出ていた。
それにも関わらず山行を実施してしまった。事前予報では20mとの風は予測していたが、駒の小屋付近では30-40mの風が吹いており、地形的なものまで理解出来ていなかった。「天候に対する甘さが出たものと考えます。」
日帰り計画や、予備日を受けて翌日下山が良かったと反省します。

今後の対応 : ①山行計画を見直す。
・日帰り計画等の見直し。
・山行自体を見直しする。場所・日程の見直し。
・予備日を設けて余裕のある計画とする。
②SOFTBANKの携帯は山では繋がらないので、ドコモ携帯に変えたい。